

令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立早稲田小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月22日】

授業作り	重 点	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル教材と紙教材のベストミックスを図り、基礎・基本を定着させる。 ■ 児童が考えたいような問い、取り組みたいような課題のある授業。 ■ 児童の学びを自分で選び、舵取りできる力を培う授業。(課題や自分に合った方法を選択して学ぶ授業)
環境作り		<ul style="list-style-type: none"> ■ 児童が安心して学校に通えるように、安全・安心を第一に考え、学習に集中して取り組める環境を整える。 ■ 互いに認め励まし合える学級づくりを進めるとともに、ICT機器等を効果的に活用し、学習効果を高める。 ■ UDLの視点を取り入れた授業づくりを行い、児童が、自己の課題に合った方法を選ぶことができるような学習環境を整備する。 ■ 保護者・地域と連携し、教育環境を整え、児童が学びに向き合い、自ら考え行動する教育を推進する。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ■ 正しい姿勢・鉛筆の持ち方ができなかつたり、筆圧が弱かつたりして、線が震えたりはみ出たりすることがあるので、整った線で正しく文字を書く力を身に付ける。 ■ ひらがなを筆順通りに書くことが定着しておらず、字形が整わないことがあるので、筆順や字のバランスを意識して書けるようにする。 ■ 数の合成、分解では、半具体物を操作して考える力を身に付ける。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 文字を書くときには、姿勢と鉛筆の持ち方について声をかける。 ② プリントやドリルでなぞり書きに繰り返し取り組む。 ③ 半具体物の操作を1時間に1回取り入れたり、操作の仕方を言葉にしたりする。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ■ 筆圧が弱かつたり正しい持ち方で鉛筆を持てなかつたりして、線が震えたりはみ出たりすることがあるので、整った線で、正しく文字を書く力を身に付けさせる。 ■ ひらがなや漢字を筆順通りに書くことが定着しておらず、字形が整わないことがあるので、筆順や字のバランスを意識して書けるように指導する。 ■ 数の合成、分解や文章問題では、絵や問題中の数字のみを見て考えようとすることがあるので、図を描いたり、半具体物を操作したりして意味を理解して考える力を身に付けさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 文字を書くときには、姿勢と鉛筆の持ち方について声をかける。 ② プリントやドリルで、なぞり書きに繰り返し取り組ませたり、デジタルドリルを活用したりして学習する。 ③ 半具体物の操作を計画的に取り入れたり、操作の仕方を言葉にしたりする。また問題文を図に表す活動を取り入れる。

<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新宿区学力定着度調査の結果、国語のすべての観点において、区の平均を上回っている。国語では特に「書くこと」で正答率が高くなっているが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は正答率が低くなっている。 ■ 家庭学習にしっかり取り組むが、漢字の書き順や形を整えて書くこと、既習の漢字を使ってノートを書くことについては定着していない児童が多い。 ■ 新宿区学力定着度調査の結果、算数のすべての観点において、区の平均を上回っているが、「図形」と「測定」で苦手さがある。図形の名前に関する用語など、算数で使う言葉が定着していない。定規で直線を引く、三角定規で直角を弁別することなどについて、正確な操作が身に付いていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主語と述語の関係や、話型や文型の指導をすることで、考えたことや思ったことを言葉で表現することへの苦手意識を軽減できるようにする。また、文章の読み取りでは、根拠となる叙述を明確にしながらか自分の考えをもてるようにする。 ■ 筆順や字のバランスを意識して書けるように指導する。また、言葉によって、漢字の読み方の使い分けができるように、また音だけでなく言葉の意味から正しい漢字を使えるように指導する。 ■ 操作を徹底し、正しく道具が使えるようにする。また考えを書いたり説明したりするときには、正しく用語を使えるように算数の言葉に触れる機会を多く作る。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 朝の会での日直スピーチや小集団での話し合い活動を取り入れ、相手に伝わる話し方や話を聞く時のポイントを指導する。 ② 登場人物の気持ちなどが表れている箇所などに線を引き、根拠を基に考える習慣を付けられるようにする。 ③ なぞり書きや空書きの活動で、筆順やとめ・はね・はらいを繰り返し指導する。宿題の漢字の訂正や漢字テストのやり直しを通して、正しい文字を習得できるようにする。 ④ 漢字ドリルで学習したあとに、デジタルドリルを活用した復習を継続する。 ⑤ 半具体物の操作を取り入れたり、場面や操作を図に表したり、操作の仕方を言葉にしたりする。 ⑥ 日常的に定規を使用して線を引く。丁寧に定規を使用できていない児童には、教員がこまめに指導する。
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字や文章を書くことに対する苦手意識がある。 ■ 新宿区学力定着度調査の結果、国語では特に「読むこと」は正答率が高い。「話すこと・聞くこと」は苦手である。 ■ 漢字小テストは意欲的に取り組むが、日常書く文章で既習の漢字を使わない児童が多い。 ■ 定規やコンパスの使い方がまだ定着していない児童がいる。 ■ 新宿区学力定着度調査の結果、算数では、ほとんどの領域で区平均を上回っている。「データの活用」のみ、区平均を下回り、苦手さがある。 ■ 基本的な計算を苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 構成を意識した文章を書けるように指導する。 ■ 問題文に書かれている情報を整理し、考える力を身に付けさせる。話をする内容の精査及び話を集中して聞くための姿勢を指導する。 ■ 日常の中で書く文章では、既習の漢字を概ね使えるよう、全ての教科において指導を行う。 ■ 「測定」については、定規の使い方やコンパスの使い方を繰り返し練習させて正確にかいたり、解いたりすることができるように指導する。 ■ データの活用においては国語や理科等の学習でも実践的に活用する。 ■ 小数の計算、筆算等、既習事項の積み重ねが大切な学習が続くので、基本的な四則計算の定着を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 毎週 200 字程度の日記を宿題にすることで、自分の考えを書く習慣を身に付ける。(既習の漢字を使用する。) ② 話す人の方を見ながら、話の中心に気を付けて聞く態度を身に付けられるよう、日常的に繰り返し声を掛ける。大事なことはメモを取って理解するよう指導する。 ③ 漢字テストのやり直しや、再テストを繰り返し実施することで、できたという達成感をもたせ、技能を身に付けさせる。 ④ 作図の学習に向けて、日常的に定規を使用して線を引く。丁寧に定規を使用する児童とそうでない児童との差があるため、教員がこまめに指導をする。 ⑤ デジタルドリル等タブレット端末を使って繰り返し練習に取り組みせ、引き続き定着を図るようにする。

<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分と比べて読んだり、考えたりすることに課題がある。 ■ 新宿区学力定着度調査の結果、国語では、全ての観点・領域で区平均を上回っている。特に「読むこと」は正答率が高い。「話すこと・聞くこと」は苦手である。 ■ 定規やコンパスの使い方がまだ定着していない児童がいる。 ■ 新宿区学力定着度調査の結果、算数では、ほとんどの領域で区平均を上回っている。「データの活用」のみ、区平均を下回り、苦手さがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文章の理解に加え、自分の経験と照らし合わせ、想像することができるように指導する。 ■ 話す人の方を見ながら、話の中心に気を付けて聞く態度を身に付けられるよう、 ■ 繰り返し練習させて、正確にかいたり、解いたりすることができるように指導する。 ■ データの活用においては理科や社会科等、他教科の学習でも実践的に活用する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 登場人物の気持ちが表れている箇所に線を引かせ、どのような気持ちか具体的に想像させる。また、自分の体験や経験を想起させる。 ② 毎週 200 字程度の日記を宿題にすることで、自分の考えを書く習慣を身に付ける。(既習の漢字を使用する。) ③ 話す人の方を見ながら、話の中心に気を付けて聞くように声掛けをする。 ④ 作図の学習に向けて、日常的に定規を使用して線を引く。 ⑤ デジタルドリル等タブレット端末を使って繰り返し練習に取り組みせ、引き続き定着を図るようにする。
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 既習の漢字を日常や作文等で活用できていない。 ■ 自分の気持ちや考えを文章で書き表すことに課題がある。 ■ 物語を読み取ることにに関して、登場人物の心情を具体的に想像することに課題がある。 ■ 「数と計算」「図形」領域が全体的に苦手な傾向にある。また、基本的な四則計算で、簡単な間違いをしてしまう児童が多くいる。 ■ 新宿区学力定着度調査の結果では国語、算数ともに基礎、応用で区平均を下回っており、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点でも 0.5～1.0 の差が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日頃からすすんで漢字を使おうとする態度を育てる必要がある。日常の中で書く文章では、5年生までの既習の漢字を概ね使えるよう指導する。 ■ 経験したことから話題を決め、自分の気持ちや考えを文章で書き表す力の育成が必要である。 ■ 登場人物の行動や気持ちなど、叙述を基に想像を膨らませて物語を読み取る力を育成する。 ■ 繰り返し練習問題に取り組む等、計算の基礎・基本を正しく理解し、正確に計算したり、作図したりする力を付けさせる。また、間違えた問題の振り返りをさせる必要がある。 ■ 基礎・基本に加え、思考力を高める問題にも継続して取り組ませる必要がある。間違いやすい問題を中心に練習を繰り返し行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 漢字を「読める」「書ける」「活用する」の指導ステップを意識して指導し、日記や振り返りを書かせる中で、学習した漢字を活用することを指導する。 ② 既習の漢字が活用できるかの確認テストを実施する。 ③ 自分の考えや意見を文章化する機会を増やす。 ④ 学習課題について、中間交流を行うことで、多様な感じ方や捉え方があることに気付かせて、まとめて生かせるようにする。 ⑤ 計算スキルとデジタルドリルを併用し、基礎・基本の力を定着させ、思考力を高める練習問題を定期的に行う。 ⑦ 課題に取り組む際、既出事項や問われていることを正しく認識して、問題に取り組ませる。また、自己の課題に適した復習プリントを用意し、定着を図る。